

# 「心くすぐる家具」をつくる

## 一家具への興味・関心を高める取り組み

森と木のクリエイター科 木工専攻 畑山 沙織

### 1. 研究背景

人の暮らしに密接し、日々使うものである家具が人により影響をもたらすものであれば、毎日の生活が豊かになる。幼少の頃、私は使うたびに楽しくなるじゃばら扉の食器棚が気に入っていて、その経験から家具に関心を持ち、インテリアの仕事に従事し家具提案をしていた。次第により多くの人に、その人のお気に入りの家具がある暮らしを楽しんでもらいたいと考えようになった。

家具の魅力を感じてもらい、永く時間を過ごす住宅で使用する家具について関心を寄せてもらうことが、幸せで豊かな暮らしへつながっていく可能性があると考えた。

### 2. 研究目的

印象的な家具の使用体験が、家具への興味・関心を高めるきっかけとなるかを試し、検証する。

### 3. 研究方法

使い心地を体感することにより、感動やおどろきが生まれるような「心くすぐる家具」を制作する。家具を体感してもらう場を設け、家具への興味・関心がどのように変化したかを調査する。

#### 3-1. 対象

家具への興味・関心の有無に関わらず、すべての人を対象とする。

#### 3-2. 方法と検証

「心くすぐる家具」を制作する。制作物を展示し、会話をしながら体感してもらう。その時の様子をみて、記録し最後にアンケートをとる。

#### 3-3. 「心くすぐる家具」とは

かつて心くすぐられた経験のある「機能+α」を持つ家具が印象に残りやすく、展示の場以降も思い出しやすいのではないかと仮定する。ものとしての役割を十分に果たし、それ以上の効果をもたらすものを「機能+αの家具」と定義した。おいしいものを食べると思わず笑みがこぼれるような感動体験（よいもの、好きなもの、未知のものに出会うこと等）によって印象に残り、興味・関心が高まるような家具を指す。

### 4. 心くすぐる家具の制作

#### ●エクステンションテーブル（①②で展示）



両側に天板が広がるテーブル。スペースに制限がある場合に提案し、購入される事例が多くあった。拡張時の操作感や、広げたときの天板に段差がなくフラットな点が気持ちよい。伸縮の手順が少ないこともポイントである。今回制作したものは通常サイズで1人分の食事スペースを確保し、コンパクトでありながら、広々と作業をしたい時や友人とお茶をしたい時など、柔軟に対応可能な所が優秀である。

〈仕様〉

- ・W600-W1000×D400×H635（片側 W200 の伸縮）
- ・金具は不使用（ドロリーフ式）

#### ●じゃばらの小箱（②で展示）



じゃばら（巻戸）という開閉方法で、開けると本体内にするすると扉が隠れていく構造。スライドしていく扉の感触がおもしろい家具。以前使っていたじゃばら扉の食器棚を喜んで開け閉めしていたことをよく覚えている。

〈仕様〉

- ・W400×D250×H225

### 5. 家具の体験プログラム

制作した家具を展示し、一般の方に触れてもらう場を2ヵ所設けた。併せて過去にその座り心地に感動した安楽椅子と、座面の素材と背もたれ角度が異なる3脚のダイニングチェアも展示し、素材による感触の違いやデザインによる快適性の違

いなども体感できるようにした。これらの家具を体感して関心がどのように変化したか、アンケートで聞き取りを行った。

#### 5-1. ①翔楓祭 (2019. 11. 9-10)



アカデミーの学園祭にて 2 日間の展示を実施した。学生、教員、一般来場者を合わせ 25 名の方からアンケートを取得。「驚いた!」「楽しかったです」等たくさんの感想をいただいた。

一方課題として、一度に複数組の来場があると対応できず会話もままならないことがあった。

#### 5-2. 2 度目の展示に向けての改善

展示会での体験後も「あの時こんな家具をみたな」と思い出すきっかけになる物があると良いと感じ、持ち帰れるお土産を制作した。  
(展示品にちなんだ記念品：じゃばらコースター)



#### 5-3. ②ミノマチャマーケット (2019. 12. 21)



美濃市うだつの上がる町並み内で開催されたマルシェに出店した。1 日の展示でアンケート取得は 16 名。「コースターが欲しくて来た」等、記念品効果も相まって来場者の喜びの声が感じられた。

## 6. 検証と評価

### 6-1. アンケート結果と考察

全体を通し「家具について知るきっかけとなった」方は 92%、「家具への興味・関心の変化があ

った」と答えた方は 93% だった。変化なしという方は「以前からかなり関心がある」との回答だった。以下一部抜粋。

- ・「初めて見た」「テーブルの構造が面白い」
- ・「じゃばらのまるさがかわいい」
- ・「興味をもった」「永く使えるのを買いたい」
- ・「木材製品はやっぱりあたたかい」

上記から「心くすぐる家具」は家具への興味・関心を高めるきっかけとなったことが示された。

### 6-2. 2 度目の実践での変化

展示品にちなんだ記念品があることで会話のきっかけが作りやすくなった。また大勢の来場があっても、代わりに他のスタッフがじゃばらの説明ツールとして活用できる利点もあり、翔楓祭の反省を生かすことができた。

展示では見せたいところに照明をあてる工夫をしたことで、どんな仕掛けがあるか、箱に何が入っているかなど興味を惹き、見てもらいたいものに目を留めやすくなるように思う。

### 6-3. 実践に対する評価

ほとんどの方がおどろいた表情や笑顔を見せ、時には真剣に観察をし、様々な視点でどんな関心を持ったかをコメントしてくれた。またその他の設問で「お気に入りの家具があるか/今後ほしいと思うか」「あなたが考える理想の暮らしとは」等を同時に考えてもらったことで、暮らしと家具の関係性を自分事としてしっかりと考えてもらう場となったと感じた。



## 7. まとめ

制作した「心くすぐる」家具によって多くの方が家具へ興味・関心を持ち、楽しみながら触れてくれた。機能+αを持つ家具は人々の心をくすぐり、笑顔にしてくれると言って良いだろう。

卒業後は家具や住宅の造作家具など、木に関するもの全般を制作していく予定である。本研究を通して得た知見から、一過性のものでなく記憶に残り、心をくすぐり続けるような家具づくりや、その人にとっての居心地のよい空間づくりの手助けができるような活動を行なっていきたい。

「家具によって暮らしを豊かにできる」、そう感じられる人を今後も増やしていけるように努めたい。